VDIプロジェクトを成功に導くためのポイントとは?

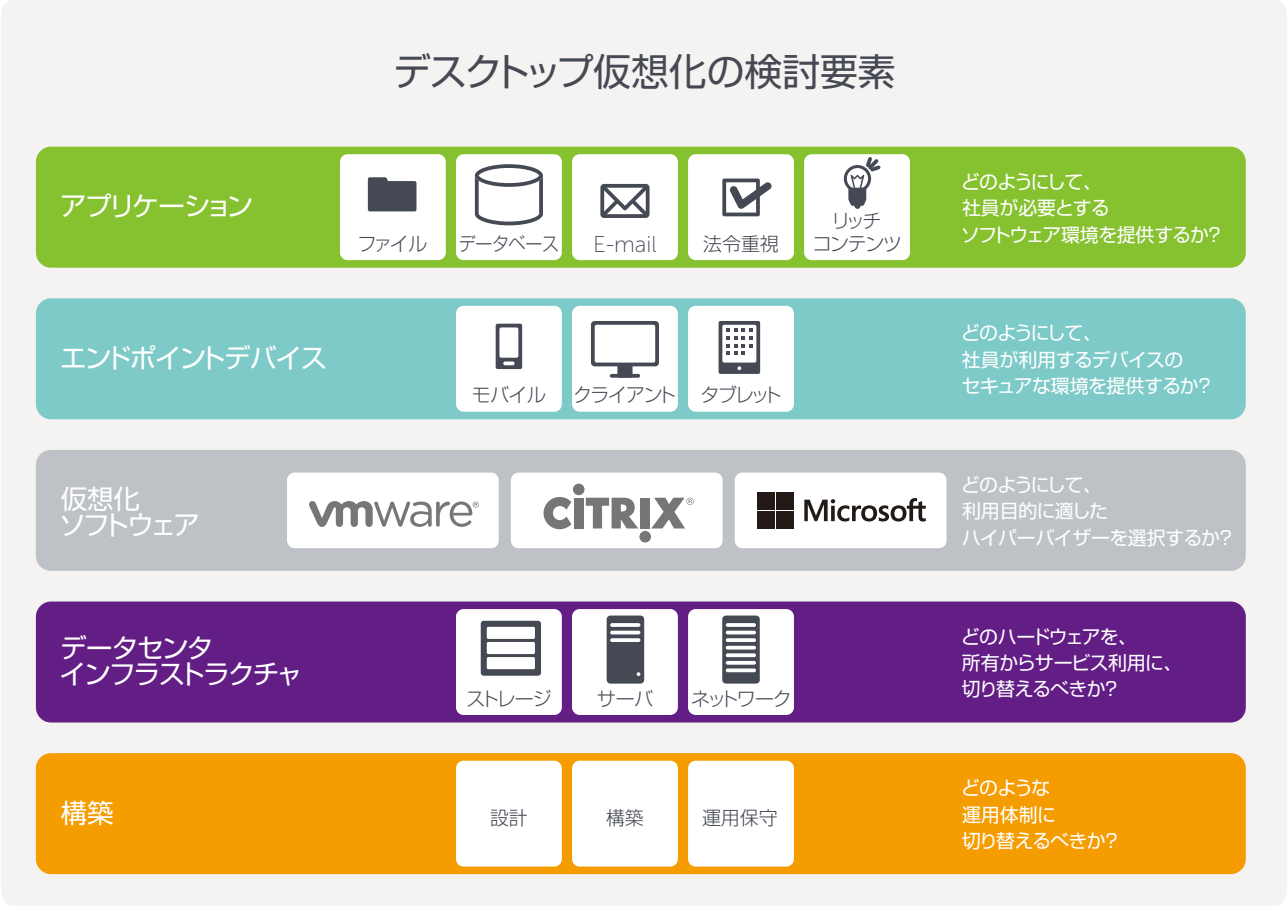
# デルのVDIソリューション

コンピューティングの中心に位置するのはエンドユーザです。そこでは、デバイスありきではなく、エンドユーザの利用シーンを徹底して理解し、企業が何を達成しようとしているのかというゴールを見極め、それに最もふさわしい技術や機能を提供することが重要となります。このコンセプトに基づき、デルは「デスクトップ仮想化(VDI)ソリューション」を拡充させています。本稿では、VDIを導入していくにあたって検討しなければならないポイントと、デルのソリューションの優位性について、2人のエキスパートが解説します。

## デスクトップ仮想化を成功させるためには

### Step 1 デスクトップ仮想化の検討要素を洗い出す!

企業・組織がデスクトップ仮想化を成功させていくためには、さまざまな検討要素が発生します。実際、デスクトップ仮想化の導入に際しては、下記のように多くのレイヤーにまたがって検討すべき要素が存在します。

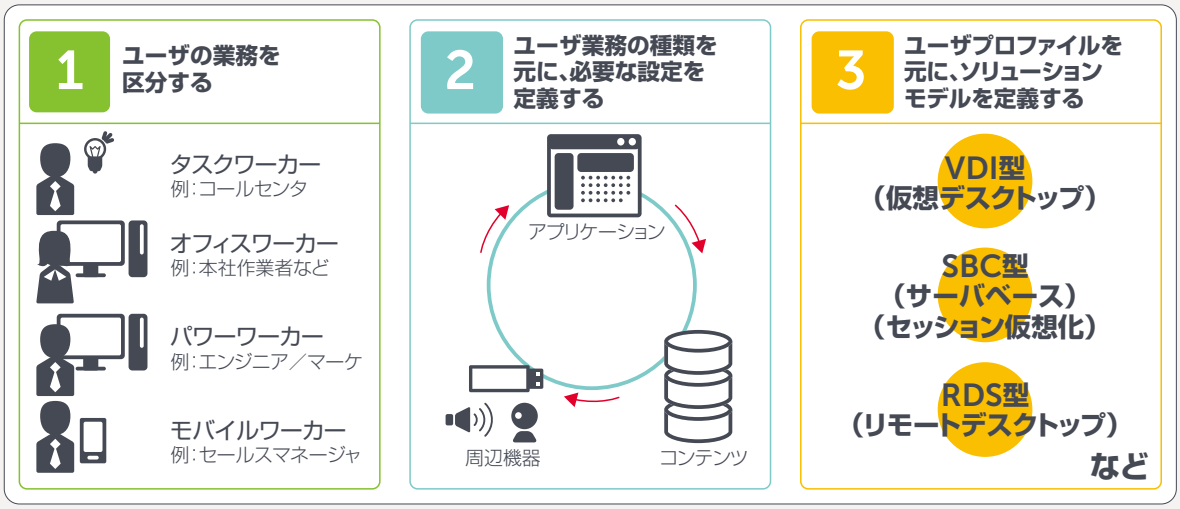


「ビジネス環境の変化に対応可能な競争力のあるエンドユーザー環境は、デバイス単体で実現できるものではありません。エンド・トゥ・エンドでIT環境全体を最適化するという視点のもと、デスクトップ仮想化を検討することが重要です」

デル株式会社
エンタープライズソリューション事業部門
エンドユーザーコンピューティング事業部
ソリューションエンジニア
成田孝弘氏

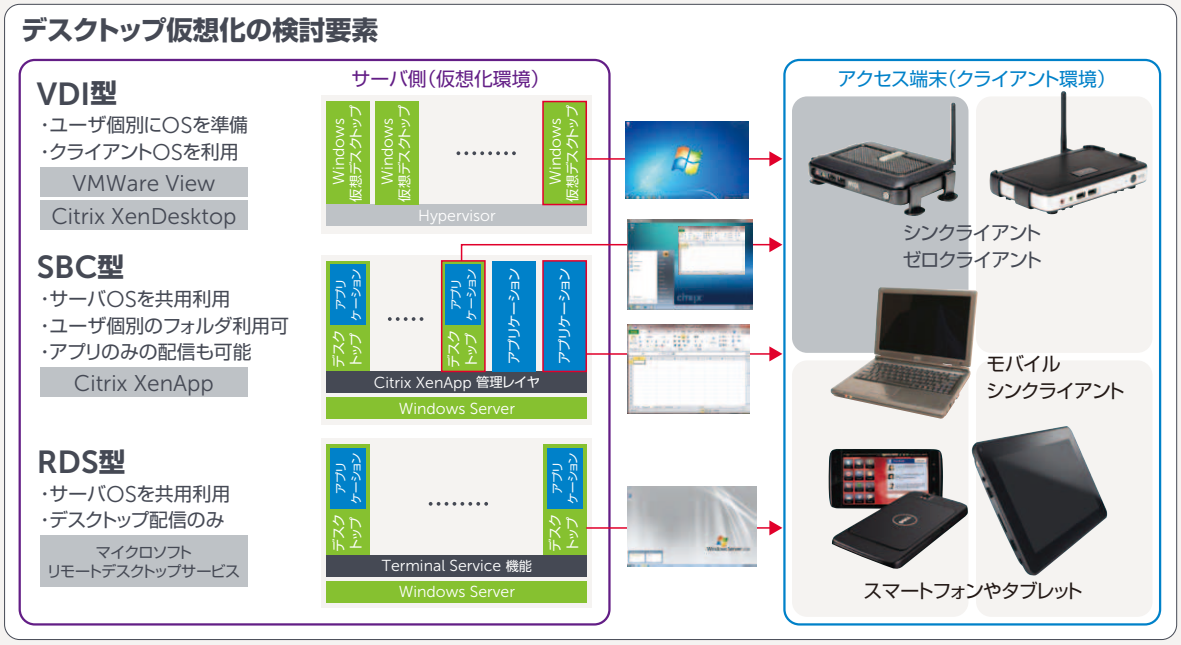
## Step 2 ユーザの業務を区分する!

デスクトップ仮想化の導入にあたっては、まずは社内ユーザごとに業務の内容を区分し、具体的な導入ターゲットを見極めていくことが必要です。そのうえで複数あるデスクトップ仮想化の手法から適切な手段を選択していきます。




## Step 3 適切な仮想デスクトップサーバ方式を選択する!

一口にデスクトップ仮想化といっても、VDI型(仮想デスクトップ)、SBC型(サーバベースのセッション仮想化)、RDS型(リモートデスクトップ)など、さまざまな方式があります。しかし、デスクトップ仮想化の導入を「型」から入ってしまうと、さまざまな製品のベンダーごとに異なる「シナリオ」に振り回され、エンドユーザの現場に混乱が生じたり、導入・運用コストが予想以上に膨らんだりしてしまうケースがあります。適材適所でソリューションを組み合わせていくことが重要です。

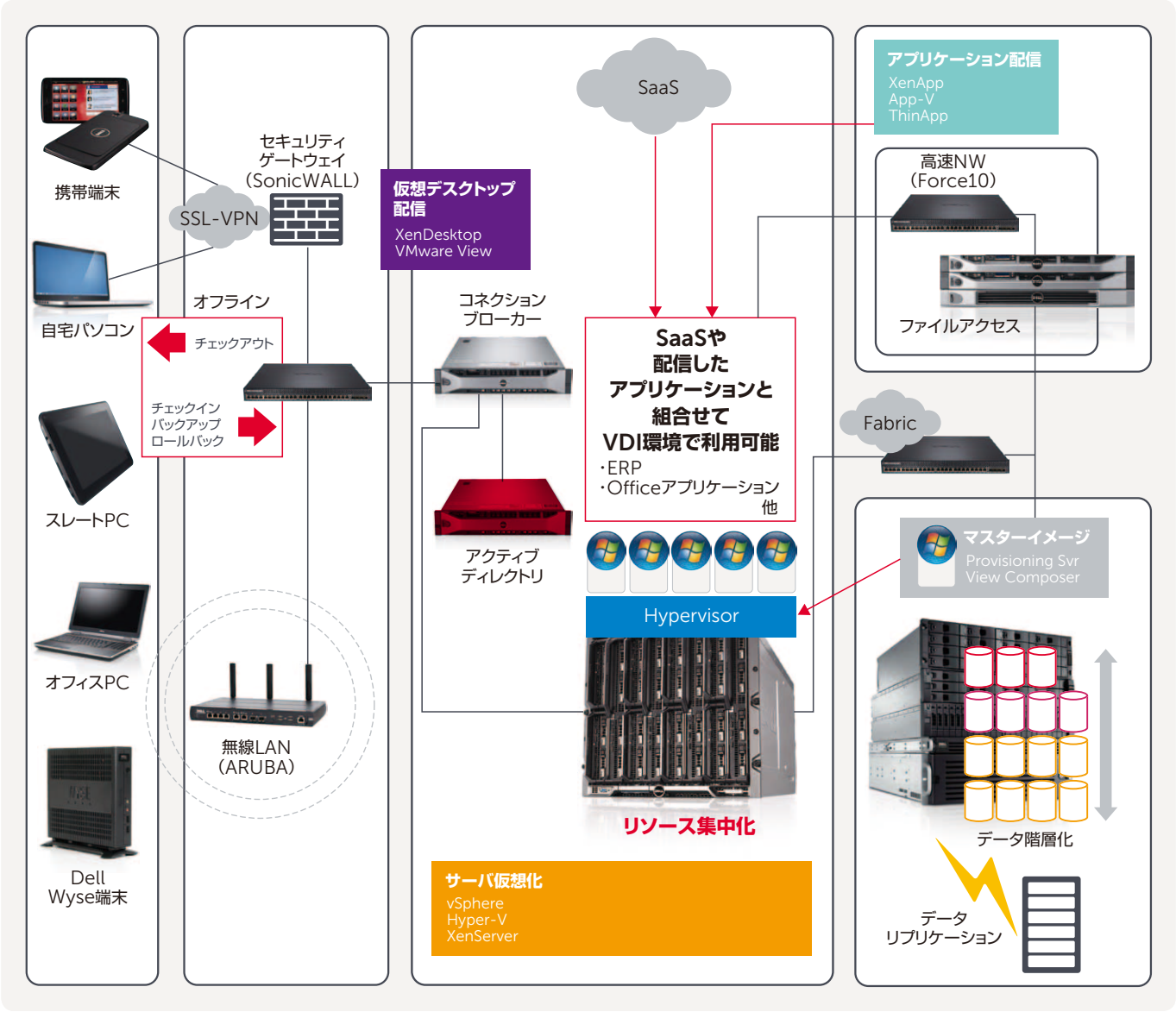



「デルでは、企業がデスクトップ仮想化によって『本当に求めていることは何か』を把握するため、ワークショップを通じて細かくヒアリングすることから始めています。対象となるユーザーの業務を区分し、利用シーンを掘り下げて理解します。その上でユーザの属性や業務ごとに必要とされるアプリケーションやコンテンツ、周辺機器を洗い出すとともに、VDI型、SBC型、RDS型のいずれの方式が適しているのかを見極め、ソリューションモデルを定義します」(成田)

# デルのVDIソリューションの優位性

## Point 1 トータルソリューションラインナップを用意

VDI実現にあたって重要となるのは、選択肢の広さです。対してデルでは、エンドポイント・デバイスのみならず、サーバ、ストレージ、ネットワークからモニタまで、幅広い製品群をお客様のニーズに応じて提供することができます。

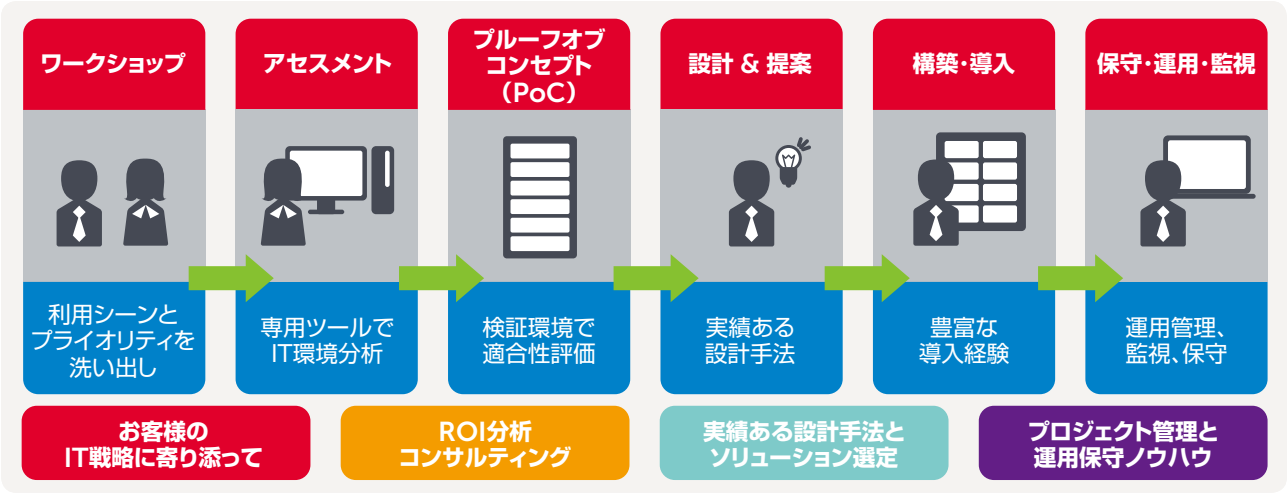


「デスクトップ仮想化は、エンドポイントからシステムインフラまで、デルがトータルソリューションを提供できる分野です。デルが従来から手がけてきたデスクトップ「OptiPlexシリーズ」、ノートブック「Latitudeシリーズ、Vostroシリーズ」、モバイルデバイス「XPSシリーズ」、そしてワイズテクノロジーのシンクライアントやゼロクライアントが加わったことでラインナップが大幅に強化、多様なエンドポイント・デバイスを企業のニーズにあわせて提供することが可能となりました」

デル株式会社
エンタープライズソリューション事業部
エンドユーザーコンピューティング本部
エンドユーザーコンピューティング・スペシャリスト
安木秀和

## Point 2 VDIソリューションをエンド・トゥ・エンドで支援

デルは製品、ソリューションの提供だけでなく、国内外で実績のある「ベストプラクティス」をフル活用しながら、ワークショップから保守・運用・監視に至るまで、お客様の企業競争力向上にご活用いただけるVDIソリューションをエンド・トゥ・エンドでご支援させていただきます。




## Point 3 利用シーンに合った多様なデバイス環境を充実の取り揃えでご提供

デルはデスクトップからラップトップ、モバイルデバイス、さらにはシンクライアントやスマートデバイスなど、多彩なエンドポイントを取り揃えています。

「デルは、企業の個別ニーズに即して、これらの最新のデスクトップ仮想化技術も柔軟に提供していきます。管理性向上の観点から、モバイルデバイス管理アプライアンスの『Dell KACEシリーズ』と連携させたオプションの整備も進めています。デスクトップ仮想化は、自社ITを改善するだけではありません。PC環境全体が高度化され、ITをより戦略的に活用し、企業競争力を高めるためのツールとなります。今後もデルは、サービスを含めた包括的なソリューションを積極的に展開してまいります」